

令和4年度
事業報告書

社会福祉法人

柴田町社会福祉協議会

1. 法人運営

法人を運営するため、法人の業務の決定を行う「理事会」と、法人の重要な事項について決議をする「評議員会」を開催した。

また、「監事会」を開催し、法人の財産の状況を監査すると同時に、監事が理事会に出席し、理事の業務執行状況を確認した。

その他、評議員の選任を行う「評議員選任・解任委員会」を開催した。

(1)理事会(4回開催)

開催年月日	出欠者	議案と審議の経過
R4. 5. 25	出席 11 名 欠席 2 名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>第 1 号議案 令和 3 年度 事業報告について</p> <p>第 2 号議案 令和 3 年度 収支決算並びに監査報告の承認について</p> <p>第 3 号議案 令和 4 年度 第 1 次補正予算について</p> <p>第 4 号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について（定款第 7 条第 3 項）</p> <p>第 5 号議案 評議員候補者の選任委員会への推薦について（定款第 7 条第 4 項）</p> <p>第 6 号議案 定時評議員会の開催について（定款第 1 4 条）</p> <p>次の内容について報告がなされた。</p> <p>1) 会長及び常務理事の職務の執行状況について</p>
R4. 8. 24	出席 12 名 欠席 1 名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>第 1 号議案 副会長の選定について（定款第 1 9 条第 2 項）</p> <p>第 2 号議案 柴田町社会福祉協議会部会構成について (1) 部会部員の指名について（部会規程第 2 条第 2 項） (2) 部会長の互選について（部会規程第 2 条第 3 項） (3) 職務代理者の指名について（部会規程第 5 条第 3 項）</p> <p>第 3 号議案 柴田町社会福祉協議会委員会構成について (1) 委員会委員の指名について（委員会規程第 2 条第 2 項） (2) 委員長の互選について（委員会規程第 2 条第 3 項） (3) 職務代理者の指名について（委員会規程第 5 条第 2 項）</p>

		<p>次の内容について報告がなされた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社協事業報告（令和4年4月～8月）と今後の事業予定（令和4年9月～12月）について 2) 第17回 社会福祉推進大会の開催について 3) 会長及び常務理事の職務の執行状況について 4) その他
R4.12.2	出席11名 欠席1名 欠員1名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>第1号議案 評議員候補者の選任委員会への推薦について（定款第7条第4項）</p> <p>第2号議案 令和4年度 第2次補正予算について</p> <p>第3号議案 評議員会の開催について</p> <p>第4号議案 第17回社会福祉推進大会の被表彰者選考について</p> <p>次の内容について報告がなされた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社協事業報告（令和4年9月～11月）と今後の事業予定（令和4年12月～令和5年3月）について 2) 会長及び常務理事の職務の執行状況について 3) 職員給与の改正について 4) 令和4年度 各種表彰受賞者について
R5.3.9	出席11名 欠席1名 欠員1名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>第1号議案 柴田町社会福祉協議会 福祉サービスに関する苦情解決 第三者委員の選任について</p> <p>第2号議案 令和4年度 第3次補正予算について</p> <p>第3号議案 令和5年度 事業計画について</p> <p>第4号議案 令和5年度 当初予算について</p> <p>第5号議案 評議員会の開催について</p> <p>次の内容について報告がなされた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社協事業報告（令和4年12月～令和5年3月）について 2) 会長及び常務理事の職務の執行状況について 3) 職員就業規程の一部改正について 4) その他

(2)監事会(1回開催)

開催年月日	出席者	議案と審議の経過
R4.5.13	監事3名 公認会計士	1. 令和3年度経理について監査の専門家(公認会計士)による外部指導監査を実施 2. 令和3年度事業並びに収支決算について監査を実施 全体として事業内容は充実しており、今後も質の高い事業展開をお願いしたい旨の総評があった。経理も専門家の指導のもとに正確に行われ、諸帳簿、伝票等の整理も適正であった旨の総評があった。
R4.5.25	監事3名	令和4年度開催の理事会に出席。令和3年度収支決算について監査報告を行った。
R4.6.13	監事1名	令和4年度開催の評議員会に出席。令和3年度収支決算について監査報告を行った。
R4.8.24	監事3名	令和4年度開催の理事会に出席し、理事会の業務執行状況について監査を行った。
R4.12.2	監事1名	
R5.3.9	監事2名	

(3)評議員会(3回開催)

開催年月日	出欠者	議案と審議の経過
R4.6.13	出席19名 欠席5名	次の議案は、原案のとおり承認された。 第1号議案 令和3年度 事業報告について 第2号議案 令和3年度 収支決算並びに監査報告の承認について 第3号議案 令和4年度 第1次補正予算について 第4号議案 役員(理事及び監事)の選任について(定款第19条)
R4.12.12	出席20名 欠席3名	次の議案は、原案のとおり承認された。 第1号議案 理事の選任について 第2号議案 令和4年度 第2次補正予算について 次の内容について報告がなされた。 1) 社協事業報告(令和4年9月~11月)と今後の事業予定(令和4年12月~令和5年3月)について 2) 第17回社会福祉推進大会の被表彰者について 3) 職員給与の改正について 4) 令和4年度 各種表彰受賞者について

R5. 3. 22	出席 19 名 欠席 4 名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>第 1 号議案 令和 4 年度 第 3 次補正予算について</p> <p>第 2 号議案 令和 5 年度 事業計画について</p> <p>第 3 号議案 令和 5 年度 当初予算について</p> <p>次の内容について報告がなされた。</p> <p>1) 社協事業報告（令和 4 年 1 2 月～令和 5 年 3 月）について</p> <p>2) 職員就業規程の一部改正について</p> <p>3) 柴田町社会福祉協議会 福祉サービスに関する苦情解決 第三者委員について</p> <p>4) その他</p>
-----------	-------------------	--

(4) 評議員選任・解任委員会(2回開催)

開催年月日	出欠者	議案と審議の経過
R4. 6. 21	出席 3 名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>1) 評議員候補者の推薦について (任期：令和 4 年 6 月 2 1 日から令和 6 年度に関する定時評議員会終結の時まで)</p>
R4. 12. 26	出席 3 名	<p>次の議案は、原案のとおり承認された。</p> <p>1) 評議員候補者の推薦について (任期：令和 4 年 1 2 月 2 6 日から令和 6 年度に関する定時評議員会終結の時まで)</p>

(5) 職員研修状況

1) 県社協等主催の研修会・会議に参加し、業務に必要な知識の習得や職員のスキルアップを図るための研修充実に努めた。

月日	研修内容	参加人数
R4. 4. 21	令和4年度県南地域社会福祉協議会連絡会事務局長会議	職員 1 名
R4. 5. 2	joca 東北視察研修	職員 4 名
R4. 5. 27	令和4年度第1回子育て自主サークル代表者会議	職員 1 名
R4. 5. 30	令和4年度第1回柴田町認知症地域支援推進員連絡会	職員 1 名
R4. 5. 26	安全運転管理者講習会	職員 1 名
R4. 7. 25	令和4年度市町村社会福祉協議会会長・事務局長会議	職員 1 名
R4. 7. 26	令和4年度市町村共同募金委員会事務局長会議	職員 1 名
R4. 8. 3	令和4年度生活福祉資金新任担当者研修会	職員 1 名
R4. 8. 26	令和4年度第1回市町村共同募金委員会担当者ミーティング	職員 2 名
R4. 9. 2	令和4年度宮城県障がい者福祉協会 市町村会議	職員 1 名
R4. 11. 10	令和4年度 宮城県市町村社会福祉協議会連絡会 県南圏域会議(復命)	職員 1 名
R4. 10. 21	令和4年度 福祉サービス事業者のためのクレーム対応研修(実践編)	職員 1 名
R4. 11. 10	令和4年度介護支援専門員更新研修(実務未経験者験対象)	職員 1 名
R4. 12. 15	令和4年度宮城県地域支え合い・生活支援推進連絡会議市町村情報交換会	職員 1 名
R5. 1. 18	令和4年度市町村生活福祉資金担当者会議	職員 1 名
R5. 1. 25	令和4年度 第1回 宮城県地域居住支援勉強会	職員 1 名
R5. 2. 3	包括的居住支援を考える(研修会)	職員 1 名
R5. 2. 9	社協福祉活動推進計画策定(打合せ)	職員 1 名
R5. 3. 16-17	令和4年度 CSW スキルアップ研修会	職員 1 名
R5. 3. 23	令和4年度第1回柴田町住民自治によるまちづくり基本条例審議会	職員 1 名

2. 調査研究

柴田町社会福祉協議会第三次地域福祉活動推進計画がどのように進められているか、その成果を明らかにすねために、計画の進行管理等を行うため地域福祉推進委員会を設置しました。

(1) 柴田町社会福祉協議会地域福祉活動推進計画福祉推進委員会

実施日	令和4年7月19日(火)
参加者	福祉推進委員(7名) 事務局(4名)
内容	報告事項 令和3年度柴田町社会福祉協議会事業報告について 平成4年度柴田町社会福祉協議会事業計画について 柴田町社会福祉協議会第3次推進計画体系内部評価について

3. 旧まごころホール利活用の提案書の作成

社協所内会議終了後、社協ワーキングチーム(各部署の代表者)によるワークショップを開催し、持続可能な活力ある地域づくりを資することを目指して、旧まごころホールの利活用について、多世代交流の重要性、効果的な施策などについて、意見を織り交ぜた提案書を町福祉課に提出しました。

(1) 社協ワーキングチームの開催及び企画提案の内容

実施日	3月2日、4月26日、5月26日、6月28日、7月28日、8月25日、10月1日
企画提案	①「1. 利活用企画提案書、2. 各コーナー企画内容、3. 利活用の要点」 ②目的、ビジョン、活用、プロジェクトの過程 ③キーワード、会場配置図 ④「多世代交流拠点」の基本的な考え ⑤フローチャート ⑥テーマごとの取組内容
内容	移動販売車 / フリーマーケット / 地域貢献 / 農福連携 / 子ども食堂 / 産直市場 / フードパントリー・フードバンク / 高齢者アクティブエイジング / 足湯 / コミュニティカフェ×暮らしの保健室 / 多世代交流の場

4. 事業の広報・啓発

町民の福祉に関する意識の高揚と社協に係る理解の促進のため、広報紙「社協だより」の発行ならびにホームページの開設により、社協事業の紹介と幅広い福祉情報を提供し、「地域福祉・社協活動」について理解を図ると共に、社会福祉への普及・啓発を行ないました。

(1)社協だより等の発行

福祉に対する理解と福祉活動への参加意識の高揚を図るため、広報活動として「社協だより」を発行(年5回：6月、8月、10月、12月、3月)し、全戸に配布しました。社協活動や取り組み及び福祉情報の提供、事業紹介に努めました。

また、新規事業である“住民力”地域づくりワークショップ実施について紹介し、地域の課題等について情報提供、特集記事、社協事業を紹介し、住民の方々に関心をもってもらえるように、広報・啓発に努めました。

(2)広報・啓発

社会福祉協議会事業の広報・啓発に参考となる資料として、事業の経過記録、整理及びホームページを更新し、社協事業のPR及び情報公開を行いました。

町広報おしらせ版(毎月1日号)「社協からのお知らせ」コーナー定期掲載。

(3)福祉まつり2022開催

柴田町地域福祉センターを会場に開催された福祉まつりは、コロナウイルス感染予防に留意しながら、テーマである「地域共生社会」を目指して、福祉でまちづくりを推進することを目的に開催しました。

コロナ禍の中ではありましたが、大勢の町民の皆様にご来場いただきました。また、イベントに際し各関係団体の皆様からご支援とご協力をいただき盛会に終えることができました。

開催年月日	参加者	内 容
10月30日(日)	参加総数 1,100人	会場：柴田町地域福祉センター(屋内、屋外) ○オープニング・セレモニー(鼓隊演奏) ○ザ・ドリームステージ(管楽器演奏、よさこい、ゴスペル)
	内訳 来場者数(781人) 協力団体(319人)	○スペシャルアトラクション(管楽器演奏) ○赤い羽根チャリティバザー ○駄菓子屋・縁日(くちびき、駄菓子販売) ○子どもの秘密基地(レクリエーション体験) ○コミュニティカフェ(ゲーム) ○模擬店(作品展示・即売・移動販売車・キッチンカー) ○アクティブ・エイジング(まちづくり団体展示・即売) ○フリーマーケット

(4)第17回社会福祉推進大会開催

開催年月日	来場者	内 容
令和5年 1月27日(金)	来場者 120人	会場：槻木生涯学習センター 第1部 表彰式典 柴田町社会福祉の発展に功績のあった方々 106名を表彰し感謝を申し上げた。 第2部 記念講演：【歌声を手話にのせて】 ～心をつなぐコミュニケーション～ 講師：サインヴォーカリスト 水戸 まなみ 氏 講師 水戸まなみ氏の講話や手話歌を聴き、手話を持つ魅力や効果についてや多様性と人権について、改めて考えることが出来た講演会となった。

5. 連絡調整事業

社協支部と連携し、身近な地域において、住民相互の支えあい活動を促進し、地域において支援を必要とする人々に対して、小地域福祉活動を展開し地域福祉の推進を図った。

(1)支部の育成

地域福祉活動の充実を図るため、社協と支部との連携を強め社協事業への理解を深めるため、支部長会議を開催した。

また、社協支部への地域福祉活動推進事業補助金の交付を行い、支部の活動促進を図った。

支部長会議の開催状況

開催年月日	出席者	議案と審議の経過
R4. 4. 18	支部長 4 6 名	社協支部長会議を次のとおり実施した。 会議内容 1) 社協における支部長との連携・協力について 2) 令和4年度 地域福祉活動推進事業費補助金の交付申請について 3) 令和4年度 いこいの日促進事業補助金の交付申請について 4) その他
R4. 6. 16	支部長 4 4 名	社協支部長会議を次のとおり実施した。 会議内容 1) 令和4年度 社協事業計画について 2) 令和3年度 社協会員加入状況について 3) 令和4年度 社協会員加入促進について 4) その他

R4. 9. 13	支部長 4 3 名	<p>社協支部長会議並びに赤い羽根共同募金運動推進会議を、次のとおり実施した。 また、会議のあとに研修会を開催した。</p> <p>●会議</p> <p>【柴田町社会福祉協議会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和4年度 社協会員加入推進状況について 2) 「第17回社会福祉推進大会」開催に伴う表彰該当者の推薦の協力について <p>【柴田町共同募金委員会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 令和4年度 赤い羽根共同募金運動協力依頼について 2) 令和4年度 赤い羽根共同募金運動の推進について 3) 資材について 4) その他 <p>●研修会</p> <p>講話 「町内会活動の理解者・協力者の参加を広げるしかけ」 ～誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていくために～</p> <p>講師 東北こども福祉専門学院 副学院長 大坂 純 氏</p>
-----------	-----------	---

(2)地域支え合い推進研修会

開催月日	開催場所	参加者（参加人員）
6月23日(木)	柴田町地域福祉センター	福祉推進委員、支部長（67名）
<p>講演</p> <p>演題 福祉でまちづくり「ごちゃまぜ」に暮らす ～「生涯活躍のまち」を目指す拠点施設の取組から～</p> <p>講師 公益社団法人 青年海外協力会 多機能型福祉事業所 JOCA 東北 IWANUMAWAY マネージャー 河合憲太 氏</p> <p>内容</p> <p>講演では、地域共生社会は住民主体を謳い、全世代を対象としています。地域共生社会とイコールで語られる「ごちゃまぜ」。岩沼市の「生涯活躍のまち」構想の核となる拠点施設で実践している JOCA 東北の取組みから「ごちゃまぜ」の本質についてご講演いただきました。</p>		

社会福祉協議会の事業内容を理解してもらい、会員会費の増収につなげるため、福祉推進委員説明会を開催した。

●福祉推進委員説明会

開催月日	開催時間	開催(支部)場所	参加者(参加人数)
7月 2日(土)	午前10時から 午前11時まで	29A区集会所	29A区役員及び福祉推進委員 (40名)
7月 2日(土)	午後7時から 午後7時30分まで	17B区集会所	17B区班長会議(35名)

令和4年度 支部及び福祉推進委員の状況

行政区	推進委員数	備考	行政区	推進委員数	備考
1	7		13	21	☆
2	6		14	17	
3	16		15	13	
4	30	☆	16	17	
5	15		17A	6	
6A	7		17B	36	☆
6B	1		18A	29	☆
7A	5		18B	15	☆
7B	13		19	7	
8	8		20	8	
9A	6		21	8	☆
9B	10	☆	22	6	☆
10	24		23	5	
11A	20	☆	24	5	
11B	31		25	5	☆
11C	39	☆	26	12	☆
11D	12		27	7	
12A	16		28	12	
12B	18	☆			
29A	34	☆			
29B	28				
29C	42	☆			
29D	39	☆			
30	30	☆	合計	686	17

(注) ☆印は、行政区の班長が担当

(3)自主財源の確保

社協の地域福祉事業を展開していくための貴重な財源となる社協会費について、町内各社協支部を単位として会員の加入を推進し、社協財源基盤の安定化を図った。

また、町内の企業廻りを実施し、企業へ社協事業について説明を行い、地域福祉への理解を深めるとともに、企業会員の加入推進に努めた。さらに、各事業等でも積極的に社会福祉協議会のPRに努めた。令和4年度は、会員数、会費金額とも前年度実績を下回ったが、コロナ禍の中、町内各世帯や企業から社協会費への多大なるご協力を頂きました。

※令和4年度の社協会員加入状況については、次頁参照。

※（令和4年度の社協会員加入状況表）

6. ふれあい福祉センター事業

生活上の心配ごと、悩みごと等に対する相談に応じるとともに、相談ニーズに対応し、助言、指導、他相談機関への紹介等を行うことで、適切な解決に導いた。

(1)福祉サービスに関する苦情解決体制の整備

社会福祉法第82条(社会福祉事業の経営者による苦情の解決)の規定に基づき、柴田町社会福祉協議会の福祉サービス提供に伴う利用者等からの苦情への適切な解決体制に努めた。

(2)ふれあい福祉センター(生活相談所)の運営

生活相談員を4名配置し、毎週火曜日午前9時から正午まで生活相談所を開設した。

相談取扱件数及び処理状況 (令和4年度)

	相談事項	相談件数	処理状況			
			解決	民生委員	他機関	その他
1	生 計	5	2	0	3	0
2	年 金	1	0	0	1	0
3	職 業・生 業	0	0	0	0	0
4	住 宅	3	0	0	3	0
5	家 族	2	0	1	0	1
6	結 婚	0	0	0	0	0
7	離 婚	0	0	0	0	0
8	健康・保健	0	0	0	0	0
9	医 療	0	0	0	0	0
10	精 神・衛 生	0	0	0	0	0
11	人 権・法 律	0	0	0	0	0
12	財 産	0	0	0	0	0
13	事 故	1	0	0	0	1
14	児童福祉・母子保健	0	0	0	0	0
15	教 育	0	0	0	0	0
16	障害(児)者福祉	0	0	0	0	0
17	母子福祉・父子福祉	0	0	0	0	0
18	老 人 福 祉	0	0	0	0	0
19	苦 情	1	0	0	1	0
20	そ の 他	2	0	0	0	2
合 計 件 数		15	2	1	8	4

7. 地域生活支援事業

地域で安心して暮らしていくことを支える活動や小地域における福祉課題を住民主体で、お互いに支え合っていく福祉活動がさらに推進されるよう研修会等に取り組みました。

(1) 小地域福祉活動の推進

①柴田町アクティビティサービス「いこいの日」促進事業

多くの地域で、これまで積み上げてきた住民活動の多くが中断を余儀なくされました。これまでの住民活動は、人と人の対面によるコミュニケーションこそが、刺激であり楽しさであったことから、大半の活動が長期に中断してしまったこと影響の大きさは、想像に難くない。

一方、地域による違いはあるものの、5年程度で地域の状況は大きく変化します。2025年には、いわゆる団塊世代がすべて75歳以上になることを考慮すると、地域の人口構成なども大きく変化人口構成なども大きく変化することが予想されます。それらの変化を見つめつつ、「地域づくり」を推進していくための研修会に取り組みました。

②柴田町アクティビティサービス「いこいの日」促進協議会研修会

開催年月日	参加者	実施内容
R4. 7. 8	社協支部いこいの日 ボランティア 64 名	第1回「いこいの日」促進事業研修会 講演・実技 テーマ 赤十字防災セミナー 「災害の備え」 & 「災害時高齢者支援講習会」 講師 赤十字防災士 堀口 頼章 氏 赤十字看護師 2 名 研修では、独居高齢者と要介護高齢者が増加している中で、災害時に役立つ知識や技術を身につけました。
R4. 9. 16	社協支部いこいの日 ボランティア 52 名	第2回「いこいの日」促進事業研修会 講話・実技「心を元気にするレクリエーション」 講師 NPO 法人 宮城レクリエーション協会 理事・副会長 山内 直子 氏 研修では、様々なレクリエーション学びました。レクリエーションは、人と人のコミュニケーション、地域づくり、子どもから高齢者までの心身の健康など人々の心を元気にします。
R4. 11. 11	社協支部いこいの日 ボランティア 99 名	第3回「いこいの日」促進事業研修会 基調講演「住民力」超高齢社会を生き抜く地域のチカラ 講師 法政大学現代福祉学部コミュニティ学科 教授 宮城 孝 氏 超高齢社会を生き抜く、地域の暮らしを守るためのチカラとして「住民力」を取り上げ、住民が地域の課題に立ち向かううえでのヒントになる内容を具体的な実践事例をもとに学びました。

③地域づくりワークショップ

地域の状況は、5年から10年で大きく変化します。地域の生活課題を共有し、地域の現状を知り、未来を予測しながら住民にできることを探る地域づくりワークショップを開催しました。

2025年には地域の人口構成なども大きく変化することが予測されます。地区の高齢者の生活実態を把握し、困りごとに対応する解決策を参加者の皆さんと一緒に楽しみながら考えました。

実施日	実施地区	内 容
5月16日(月)	3区	地域づくりの4つの窓 ①地区のいいところ ②高齢者の地域生活課題 ③こんな生活支援があったらいいな ④私たちにできること
6月4日(土)	1区	
7月27日(水)	18B区	

④「いこいの日」実施地区の実施内容

社協支部等	名称	内容・参加者	実施回数
第1区	いこいの日	100歳体操、講話、ゲームなど	年 9回
		参加者延べ104人 従事者 121人	
第3区	さくらの日	誕生祝、脳トレ、軽運動、クリスマス会など	年 5回
		参加者延べ157人 従事者 20人	
第4区	ふれあいの日	講話、スポーツレクリエーション、社会見学、軽運動	年 3回
		参加者延べ76人 従事者 27人	
第5区	みどりの日	民話、移動研修会、講話、ゲーム	年 4回
		参加者延べ125人 従事者 8人	
第7A区	いこいの日	脳トレ、計算ドリル、移動研修	年 3回
		参加者延53人 従事者 5人	
第7B区	いこいの日	100歳体操、合唱	年 1回
		参加者延23人 従事者 3人	
第9A区	どてっこ憩いの日	筋トレ、ニュースポーツ、クリスマスコンサート	年 4回
		参加者延べ179人 従事者 90人	

第9B区	なかよし憩いの日	移動昼食会、大商ギター、腹話術	年 2回
		参加者延べ53人 従事者 9人	
第10区	ハッピー10区	軽体操、ゲーム、クリスマス会	年 8回
		参加者延べ114人 従事者 81人	
第11A区	まざらん会	脳トレ、軽運動、合唱、映画鑑賞	年11回
		参加者延べ137人 従事者 72人	
第12A区	中名生親交会	健康講話、相撲ゲーム、レクリエーション	年12回
		参加者延べ187人 従事者 28人	
第11D区	いこいの日	ギョウザ作り	年 1回
		参加者延べ 10人 従事者 10人	
第13区	しあわせの日	七夕飾り、ゲーム、クリスマス会、ひな祭り会	年 4回
		参加者延べ 52人 従事者 35人	
第17A区	ふれあいの会	クリスマス会	年 1回
		参加者延べ27人 従事者 16人	
第17B区	宝 寿 会	クリスマス会、ひなまつり会	年 2回
		参加者延べ70人 従事者 25人	
第18A区	いこいの日	映画鑑賞、軽運動、ビンゴゲームなど	年 3回
		参加者延べ121人 従事者 11人	
第18B区	げんき会	民話、移動研修、講話、ゲーム	年 7回
		参加者延べ125人 従事者 8人	
第19区	いこいの日	情報提供、安否確認など	年 2回
		参加者延べ52人 従事者 14人	
第21区	ふれあいサロン	健康体操、ボッチャ、社会見学	年 2回
		参加者延べ5人 従事者 35人	

第28区	いこいの日	七夕まつり	年 2回
		参加者延べ35人 従事者 7人	
第29B区	北船岡支部	ボッチャ、輪投げ、折り紙など	年22回
		参加者延べ557人 従事者 79人	
第29B区	二本杉茶屋	体操、ゲーム、出前講座、工作	年23回
		参加者延べ323人 従事者 240人	
第29D区	にこにこ会	ラジオ体操、脳トレ、ゲーム等	年12回
		参加者延べ151人 従事者 168人	
第30区	いこいの日	レクリエーション	年1回
		参加者延べ222人 従事者 20人	
合 計		参加者延べ人数 参加者4,067人	参加者延べ2,935人 従事者 1,132人

(2) 高齢者福祉の推進

①第38回ふれあい交流会(ひとり暮らし高齢者)の開催

75歳以上(介護保険サービス利用者対象外)のひとり暮らし高齢者を対象に、お互いの親睦を深めるとともに、楽しい一日を過ごすことを目的に開催しました。

開催年月日	参加予定者	内 容
R4.10.25	参加者 52名	町内に住む75歳以上のひとり暮らしの方々を対象に、みなさんが参加できるコンサートを開催し、お互いの親睦を深めるとともに楽しい1日を過ごすことを目的に開催。 (コンサート演奏:阿部 弘子 氏) (会場・柴田町地域福祉センター)

コンサートを通じて、日頃の孤独感の解消やお互いの親睦を深める目的で開催しました。民生委員と連携し、本会活動の「高齢者の引きこもり防止」や「災害時の要支援者の見守り」活動としても再確認を図ることが重要と考えられます。

今後も、ひとり暮らし高齢者の増加が見込まれることから高齢者の支援事業として、民生児童委員と連携を密に進めていきます。

②第9回ひと足早いクリスマスコンサート（ひとり暮らし高齢者）の開催

町内に住む70歳以上75歳未満の（介護保険サービス利用者対象外）のひとり暮らし高齢者、70歳以上の日中ひとり暮らし高齢者を対象に、お互いの親睦を深めるとともに、心温まる時間を楽しんでいただくことを目的に開催しました。

開催年月日	参加者	内 容
R4. 11. 22	参加者 39名 民生委員 3名 職員 10名	町内で音楽教室を主宰しております阿部 弘子先生をお迎えして開催しました。～クリスマスファンタジー ようこそティズニーの世界へ～と題して、阿部 弘子氏の楽しいクリスマスの世界により幻想的な世界を表現。数々のキャラクターが登場し、楽しいストーリーが繰り広げられました。全員による楽器演奏があり、楽しいコンサートとなった。

(2)子育て支援事業

少子化や核家族が進む中で、子どもを生み、育てやすい社会をつくるために子育て機能の強化が必要とされています。家庭や地域における子育て機能が低下する中で、子育てについて悩みを共有し、支え合い理解し合える交流広場として、「子育てサロン」や「リズムあそび」を実施しました。子育て支援事業として定着し、社協事業理解の啓発にもつながっています。

① 子育てサロン「きらら」の開催

地域で子育て中の親子が気軽に集い、仲間づくりができる場をつくることを目的に、毎月第2・4金曜日（きらら／会場：柴田町地域福祉センター）年21回開催した。

「きらら」では、オカリナ演奏、大型絵本などのお楽しみ会を実施し、しばたおもちゃ病院診察室を同時開催（偶数月）しました。

「きらら」	延べ参加者数	(259名) 平均 12名 親 108名 子 151名
	延べボランティア数	(122名) 平均 5名

※4/7、1/27 は中止

② 「親子でリズム遊びをしよう！」の開催

親と子の交流を目的とした、「親子でリズム遊びをしよう」をボランティアグループ杉の子福祉コーラスが、野町純子先生と伊澤美和子先生のご指導のもと7/22、11/11（2回）開催。軽やかな歌声を聞きながら親子一緒にリズムに乗って楽しい時間を過ごしました。「子育てサロンきらら」との同時開催なので、気軽に参加しやすいイベントとなりました。

(3)共生型交流サロン「みんなの居場所」

①地域交流サロン「カフェテラスつどい」の開催

船迫地域にて、地域の社会資源の開放と昼間に社会的に支援を必要とする人々との交流を目的に、毎月第3月曜日に多機能型地域ケアホームふなおかを会場に開催。

令和4年度は、コロナ感染拡大により中止。

②地域福祉センター・サロンコンサートの開催

福祉教育やボランティア活動等を通じて、活動の楽しさやボランティア活動のPR。

柴田町地域福祉センターが住民にとって、より身近に開かれた施設になるために、地域交流や町内に被災されている方々の交流の場「地域の居場所」として開催。

開催月日	参加者数	内 容
5月11日(水)	39	サククス演奏(マイケル秦氏)
6月7日(火)	27	三味線&尺八(保科良子氏・小松秀雄氏)
7月6日(水)	34	トーンチャイム(レインボースターズつきのき)
8月5日(金)	51	夏休み特集(柴田高等学校 吹奏楽部)
9月2日(金)	25	舞踊(あやの会)
10月4日(火)	42	ギター演奏(ル・レーブギターアンサンブル)
11月10日(木)	30	大正琴(大正琴船岡やよい会&大正琴つきのき)
12月9日(金)	19	年長組発表会(第一幼稚園)

③「家族みんなで楽しもうワンダーランド」の開催

柴田町地域福祉センター多目的ホールを会場にお育て親子が気軽に交流できることを目的にサロン事業を開催しました。

■実施月日:令和4年6月26日(日)参加者(親子10組/25名)

■内 容:前半/「えずこヴァイオリン♪えずこチェロ♪アカデミーコンサート」の他、楽器体験。

後半/親子で楽しむオンリーワン・ガーデニング(観葉植物の寄せ植え)体験。

■協力団体:花木会代表 松浦 千代松 氏

④コミュニケーション麻雀「雀のお宿」

期 日:令和4年4月5日・5月10日・6月7日・7月5日・8月2日・9月6日・

10月4日・11月1日・12月6日・1月10日・2月7日・3月7日

毎月第1火曜日午前開催

参加者:延べ231名昨年度より70名増(平均19名)

協力団体:しばた健康麻雀の会

コロナ禍のため、周知活動は縮小し、活動は感染対策を行いながら実施した。

(生活支援体制整備事業との連携)

協力団体「しばた健康麻雀の会」については、フレイル予防として着目され、健康・生き

がい等男性の社会参加と居場所を提供した。本年度からは女性の参加も始まり、平均5～6名の参加で楽しんでいた。1月からは自主的に始める前に全員で「ラジオ体操」を実施

(4) 住民参加型の生活支援サービスの推進

① ふれあいネットワーク互助事業

社協会員互助の支援活動として、住民参加型の在宅福祉サービスを展開し、利用者の在宅での生活を支える活動（移動支援、家事援助支援等）に取り組みました。新型コロナウイルスの影響もあり、研修会は開催できませんでしたが、事業の啓発に取り組みました。

③ 協力会員研修等内容

開催年月日	参加者	会議及び研修内容
R4. 5. 17	協力会員 5 名	○「福祉車両操作方法について」 講師：柴田町社会福祉協議会

③ 協力会員の活動状況

住民のたすけあい事業として、ふれあい協力会員の協力のもと、移動制約者（障害のある方や介護認定の高齢者あるいは透析患者）への移動サービスとして、通院介助や施設への移動などセダン車や福祉車両でサービスを提供した。

また、家事援助として、買物などの支援を行うことにより本人または家族の負担軽減を図った。

近年は特に移動サービスの利用が増加傾向にあり、利用者については後期高齢者が増加している。

今後も利用会員の増加が見込まれるため、協力会員の増員が求められているが、新規ボランティアが集まらない状況にあるため、対策を検討していく必要がある。

令和4年度会員数

協力会員 14名(移動サービス) 利用会員 60名(移動サービス)

協力会員 1名(家事援助) 利用会員 1名(家事援助)

○移動サービス車両内訳

セダン車両（公用車）	セダン車両（私用車）	福祉車両（公用車）	福祉車両（私用車）
5 台	4 台	3 台	1 台

○活動(利用)の状況

家事援助	移動サービス	子育て支援	その他
回数	回数	回数	回数
37	1, 249	0	0

④福祉有償運送に係る道路運送法第79条関連

ふれあいネットワーク互助事業で実施している運送サービスについて、事務局として福祉有償運送に係る運営協議会等へ参加し、道路運送法第79条の登録申請を行い、宮城運輸支局より新たに登録証の交付を受けることができた。

(5) 福祉機器貸与事業

地域住民(会員)に対しての在宅福祉として、福祉機器貸与事業を行い、要援護者とその家族の負担を軽減することを目的に次のサービスを提供した。

①福祉機器等の貸与

在宅介護者等を対象に介護用ベッドや車いす等の福祉機器の貸与や子育て支援用品等の貸し出しを行った。

車椅子やチャイルドシートなどの貸与申請を希望する方が多く、短期利用も多かった。今後も利用の増加が見込まれるため、台数の充実を図ります。

令和4年度 福祉機器貸与状況

(1ヶ月以内の短期含む)

貸与品目	保有総数	令和4年度末の総貸与数	令和4年度貸与数
介護用ベッド	59台	39台	5台
車イス	134台	100台	52台
ベビーシート	10台	3台	0台
チャイルドシート	144台	100台	55台
ジュニアシート	32台	22台	19台
ベビーベッド	37台	26台	24台
ベビーバス	22台	8台	9台
ベビーカー	24台	19台	10台

8. ボランティアセンター活動事業

地域の連帯感や人間関係の希薄化が問題となっている中、多様なボランティア・市民活動の支援と住民参画の基盤づくりと時代求められるボランティア養成講座を図った。

(1) ボランティア活動の推進(ボランティアセンター機能を含む)

地域ボランティアの活動促進を図るため、実践参加型のボランティア養成講座を開催した。

また、ボランティア相談、情報の提供、ボランティア活動者のための傷害・賠償責任保険制度の加入促進等を行った。

①福祉防災啓発活動

今年度は、災害ボランティア活動内容や現状について説明及び災害への備え等について、福祉体験等、参加対象者に応じた企画プログラムの出前講座を実施した。子供から高齢者まで幅広く福祉防災ワークショップを楽しみながら学びました。

(延べ5回82名)

No.	開催月日	曜日	依頼者	参加者	内容
	9月1日	木	育児サークルさくらんぼう	26名	防災ワークショップ(防災教室)

	9月27日	火	〃 ちょうちょ	10名	防災ワークショップ（防災運動会）
	9月28日	水	〃 ポップ	11名	防災ワークショップ（防災運動会）
	3月5日	日	7A 婦人防火クラブ役員研修	10名	防災ワークショップ(防災ビンゴ)
	3月27日	月	二本杉茶屋	25名	防災ワークショップ（KYT）

②災害ボランティアセンター「大規模災害時に備える研修会」

研修会では、区長及び防災担当者、民生委員が集まり、水害時時系列カードワークゲームを通して災害発生時の行政や住民の動きなどをタイムラインで学びました。

地域の実情と照らし合わせ、「災害にも強い地域」を目指すことを目的に開催しました。

開催年月日	参加者	内 容
R5. 3. 7(火)	52名	○「災害を時間軸で考えるカードワーク」 ～国も勧めるタイムライン防災という考え方～ 講師 ウェザーハート災害福祉事務所 代表 千川原 公彦 氏

③被災者支援事業「交流サロンさくら」の開催

東日本大震災後から12年が過ぎ、柴田町で生活している被災世帯も21世帯となりました。町内在住の被災者の方々を対象に、参加者同士の交流や情報交換を目的に「柴田町傾聴の会ほのぼの」の協力を得ながら開催。

開催月日	対象者	協力者	開催月日	対象者	協力者
4月 8日	3	5	10月 4日	4	5
5月11日	6	3	11月 5日	4	2
6月 7日	3	6	12月 9日	3	4
7月 6日	5	4	2月 6日	4	6
8月 5日	2	6	3月 6日	4	5
9月 2日	3	6	合 計	41	52

④令和4年度ボランティア養成講座

住民生活におけるニーズは、家事援助、見守り、子育て支援、地域の足の確保、地域の交流など幅広く存在します。今後、高齢化や家族形態・地域社会の変容により暮らしを支える機能が低下し、新たな公共私協力の関係により、暮らしを維持する必要性が高まるおそれがあります。今後、住民ニーズを満たす共助によるサービス提供体制をいかに構築するかが課題となります。自分の街をよくするために、あらゆる世代が、ボランティアとして、またコミュニティサービスとして、多様な実践に取り組むことが期待されています。今回、ボランティアに関する基礎知識やヘルパーの現状を学ぶ講座として開催しました。

開催年月日	参加者	内 容
R4. 11. 30	21 名	「ホームヘルパーの現状と課題」 現在活動しているヘルパーの現状や課題を学び、今後の活動につなげます。 講師：株式会社ピース 加藤 喜久江 氏

ボランティア養成×地域支え合いデビュー

「コミュニティガーデン講座 ～みんなで作るみんなの庭～」

少子高齢化社会に対応した持続可能なコミュニティの形成や崩壊したコミュニティの再生等の手法として「コミュニティガーデン」の位置づけがあります。

様々な人との関わりながら、「花のあるまちしばた」を誇りに思い、町民ひとりひとりが自分らしい「コミュニティガーデン」の本講座(3回)を通じて学ぶことを目的に開催しました。

開催年月日	参加者	内 容
R4. 11. 8	10 名	社会見学・交流体験 「町内のコミュニティガーデン・花の丘見学」 講師：まちづくり政策課担当職員 花の丘ガーデンクラブ主宰 橋本幸子氏
R4. 11. 15	10 名	ワークショップ 1 「コンテナガーデンをみんなで作る」 講師：花の丘ガーデンクラブ主宰 橋本幸子氏
R4. 12. 20	10 名	ワークショップ 2 「庭師の技を学び、みんなで庭木の作業」 講師：柴田造園会長 平間榮雄氏

⑤ 託児ボランティア派遣事業(公的機関等のみ)

コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から中止

⑥ ボランティア保険の加入状況

住民のボランティア活動が安全・安心に活動できるように、活動中の傷害保険・賠償保険制度について、加入を周知し手続き事務を行った。

ボランティア保険（行事保険含む）加入状況（令和5年3月31日現在）

年間手続き件数	213件	年間加入人数	5,268名
---------	------	--------	--------

※天災（個人2名）・柴田町災害ボランティアセンター登録（2名）

(2) 福祉教育推進

子どものころから福祉への理解を深めるため、社協では学校からの依頼を受け、指導内容や狙い等を担当教諭と打ち合わせを密にし、福祉体験の指導を行った。また、継続して防災学習を行うことにより災害への意識を高めてもらえるように働きかけた。

① 防災福祉体験学習への協力(出前講座) (実施回数：35回 延べ2,066人)

No.	開催月日	依頼者	参加者	内 容
1	9月27日	西住小学校1学年	21	防災紙芝居クイズ
2	9月27日	西住小学校2学年	15	防災3択クイズ
3	9月27日	西住小学校3学年	15	危険予知トレーニング
4	9月27日	西住小学校4学年	17	防災ビンゴ
5	9月27日	西住小学校5学年	22	災害に備える
6	9月27日	西住小学校6学年	19	クロスロード
7	9月30日	船岡小学校4学年	77	手話、車椅子、白杖
8	10月20日	西住小学校4学年	17	白杖、車椅子
9	11月24日	船迫小学校3学年	77	車椅子白杖体験
10	11月28日	船迫小学校3学年	77	聴覚障がい者の生活理解
11	11月30日	船迫小学校3学年	77	視覚障がい者の生活理解
12	12月12日	船迫小学校3学年	77	障がいのある人ない人のニュースポーツ
13	12月15日	船迫小学校3学年	77	視覚障がい者支援
14	12月16日	船迫小学校3学年	77	まとめ(バリアフリーについて)
15	12月6日	槻木中学校2学年	96	DIG(防災マップ)
16	12月7日	槻木中学校1学年	85	防災グッズの活用について
17	12月9日	槻木中学校3学年	110	HUG(避難所運営ゲーム)
18	12月2日	船迫中学校1学年	78	クロスロード
19	12月20日	船迫中学校2学年	70	南海トラフ啓発防災学習(ビデオ使用)
20	12月20日	船迫中学校3学年	56	HUG(避難所運営ゲーム)
21	1月17日	槻木小学校4学年	79	手話体験
22	1月18日	槻木小学校4学年	79	車椅子体験
23	1月19日	槻木小学校4学年	79	点字体験
24	1月20日	槻木小学校3学年	81	白杖体験
25	1月23日	槻木小学校6学年	78	福祉について考えよう
26	1月24日	柴田小学校3学年	7	防災三択クイズ
27	1月24日	柴田小学校4学年	8	危険予知トレーニング
28	1月24日	柴田小学校5学年	5	防災ビンゴ
29	1月24日	柴田小学校6学年	11	クロスロード

30	1月25日	東船岡小学校4学年	50	車椅子・白杖体験
31	1月25日	東船岡小学校3学年	45	車椅子・白杖体験
32	2月1日	槻木小学校3学年	81	福祉について考えよう
33	2月6日	船岡中学校1学年	146	クロスロード
34	2月8日	柴田小学校3学年	7	車椅子・白杖・高齢者体験
35	2月10日	船岡中学校2学年	150	DIG(防災マップ)

②夏・ボランティア体験学習(小学1年～6年対象)

協力：福祉・防災学習サポーター

小校生を対象に、福祉について理解を深め、「思いやりの心」を育て、ボランティア活動・防災学習を通して、地域や学校におけるボランティア活動の育成と促進を図ることを目的として開催した。

開催日	参加者	体験内容(対象学年)
8月9日	9名	1)「ふくしって何？」紙芝居等 2)「紙食器づくり、避難リュックを見てみよう！」 3)「防災食体験」 協力：福祉防災学習サポーター

9. 共同募金配分事業

地域福祉の推進という共通の目標の下、共同募金会と社協がより密接な連携を図り、その広報・啓発を積極的に協力した。

(1) 歳末たすけあい募金配分事業

「歳末たすけあい運動」は、共同募金運動の一環として地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、支援を必要とする人たちが地域で安心して暮らすことができるよう、在宅対象世帯を配分対象世帯への募金配分と各地域における災害時に備え、福祉的な支援活動に対する事業配分を歳末たすけあい募金配分委員会の審議を経て配分されました。

令和4年度 歳末たすけあい募金配分実績

区分	配分対象	算定基準	配分額
在宅対象世帯	準要保護世帯	10,000円× 8 世帯	80,000
	母子世帯・父子世帯 両親のいない児童・生徒養育世帯、 交通・労災遺児養育世帯	10,000円× 75 世帯	750,000
	重度心身障害児者同居世帯	10,000円× 37 世帯	370,000
	65才以上の独り暮らし高齢者（世帯）	10,000円× 99 世帯	990,000
	65才以上の寝たきり高齢者同居世帯	10,000円× 2 世帯	20,000
	65才以上の高齢者で構成する世帯	10,000円× 2 世帯	20,000
	その他援護を必要とする世帯	10,000円× 4 世帯	40,000
	小計	10,000円× 227 世帯	2,270,000
地域住民が参加できる福祉活動の展開に対する支援（「いこいの日」促進事業、地域世代間交流事業、フードバンク事業支援）			1,028,627
地域福祉の参加の促進に対する支援(次世代育成事業)			297,000
善意銀行への預託（災害見舞金の贈呈、生活支援金）			22,661
歳末たすけあい運動推進費（事務局諸経費）			250,000
合 計			3,868,288

10. 資金貸付事業

低所得等への資金の貸付のひとつの手段として、適正な貸与を行うとともに借受世帯の自立更生を促進した。

(1) 生活安定資金の貸付

目的：柴田町に居住する低所得者に対し、小口の生活資金の貸付と必要な援助、指導を行なうことにより自立更生と生活安定に寄与することを目的とする。

◎貸付関連の相談総数件数(0件)

○貸付決定償還件数(0件)

(2) 生活保護つなぎ資金の貸付

目的：生活保護法による保護の申請を行い、保護が適用されるまでの間、手持ち金がなく、生活に支障をきたす恐れのある方に対して、生活保護つなぎ資金の貸付を行い、自立更生と生活安定を図ることを目的とする。

◎貸付関連の相談総数件数(0件)

○貸付決定償還件数(0件)

(3) 生活福祉資金の貸付(県社会福祉協議会からの事務委託)

目的：生活福祉資金貸付制度：低所得世帯・障害者世帯・高齢者世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的な自立と生活意欲の助長促進のために、安定した生活を送れるよう支援することを目的とする。

【資金貸付の相談及び申請内容】

○総合支援資金・・・失業等により、日常生活全般に困難を抱えた世帯

1. 生活支援費(生活再建までの間に必要な生活費用)

2. 住居入居費(敷金、礼金等住宅の賃貸契約を結ぶための必要な経費)

3. 一時生活再建費(生活を再建するために一時的に必要かつ日常生活で補うことが困難である費用)相談(14件)

○福祉資金・・・日常生活を送るうえで、または自立した生活を行うために一時的に必要であると見込まれる費用

1. 福祉費(技能習得、福祉用具、障害者用自動車、医療費等一時的に必要であると見込まれる費用)相談(2件)

2. 緊急小口資金(医療費、盗難、被災等で一時的に生計が困難となった場合の少額の費用)申請(1件)決定(1件)

○教育支援資金

1. 教育支援費(低所得世帯で高等学校、大学、短大、高等専門学校、専修学校に就学するのに必要な経費)

2. 就学支度費(低所得世帯で高等学校、大学、短大、高等専門学校、専修学校に入学に必要な経費)

○不動産担保型生活資金・・・居住用不動産を所有している方で、将来にわたりそこに住み続けることを希望する高齢者世帯に対し、現に居住している不動産を担保に貸付。

1. 不動産担保型生活費 相談(1件)

2. 要保護世帯向け不動産担保生活費

○各償還事務処理・償還指導

(4) 生活福祉資金(緊急小口資金等)特例貸付

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、貸付の対象世帯を低所得世帯以外に拡大し、休業や失業等により生活資金でお悩みの方々に向けた、緊急小口資金等の特例貸付の相談及び申請手続きを実施しました。(申請受付:令和4年9月30日で終了)

緊急小口資金	(一時的な資金が必要な方[主に休業された方])	貸付決定者
貸付対象者	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、休業等により収入の減少があり、緊急かつ一時的な生計維持のための貸し付けを必要とする世帯	24件 職業
貸付上限額	20万円以内	サービス業 医療・福祉 個人事業主 製造業
据置期間	1年以内	運送業 保険業
償還期限	2年以内 貸付利子 無利子	
総合支援資金	(生活の立て直しが必要な方[主に失業された方])	貸付決定者
貸付対象者	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている世帯	26件 職業
貸付上限額	(二人以上)60万円以内 (単身世帯)45万円以内 ※追加で貸付を行うことができる(延長、再貸付)	サービス業 医療・福祉 個人事業主 製造業 運送業 保険業
据置期間	1年以内	
償還期限	2年以内 貸付利子 無利子	

1.1. 福祉団体支援事業

福祉関係団体に対する住民参加の促進と民間社会福祉事業の振興と発達を図るため支援活動として助成を行った。

○助成団体

団体名称	加入人数(人)
柴田町ボランティア・NPO活動連絡会	団体24団体、個人25名、賛助22名
柴田町子ども会育成会連絡協議会	町内6小学校区子ども会育成会
柴田町ジュニアリーダーサークル「かぐや姫」	会員数13
柴田町身体障害者福祉協会	会員数33
精神障害者家族会「桜会」	会員数17
柴田町遺族会	会員数151
柴田町更生保護女性会	会員数30
柴田町民生委員児童委員協議会	民生委員児童委員80人、主任児童委員3人
柴田町老人クラブ連合会	会員数327
柴田町婦人防火クラブ連合会	団体数36
合計 10団体	

※団体業務については、1.3. 福祉団体等事務局業務を参照。

12. 基金運営事業

社協事業を円滑に運営するために、各種基金を設け、資金を計画的且つ適正に運用管理した。

(1) 基金等の管理運営

○「福祉振興基金」

目的：地域福祉活動と本会運営の安定化を図るため設置。

基金額：10,000千円

○「災害対策基金」

目的：大規模災害が発生した際に、本会において立ち上げる災害ボランティアセンターの円滑な運営を図るため設置。

基金額：5,000千円

○「車両整備基金」

目的：将来の社会福祉事業に使用する車両の更新に備えるため設置。

基金額：8,000千円

○「新規事業対策基金」

目的：新規事業を実施する際の運営資金に充てるため設置。

基金額：3,000千円

(2) 善意銀行の運営

善意銀行は、寄付金や寄付物品を効果的に社会生活の相互扶助に活用し、地域社会の福祉の増進に寄与することを目的に設置。

善意銀行運営状況

① 金銭受入明細

No.	月 日	受 入 先	金 額 (円)
1	R 4. 8. 13	通帳利息	13
2	R 5. 2. 11	通帳利息	13
3	R 5. 3. 10	歳末たすけあい配分金	22,661
合 計			22,687

② 金銭払出明細

No.	月 日	払 出 先	金 額 (円)
1	R 4. 10. 7	フードバンク用食品購入	1,134
2	R 4. 11. 1	生活支援金 (1件)	5,000
3	R 5. 3. 20	フードバンク用食品購入	4,246
4	R 5. 3. 30	フードバンク用食品購入	750
合 計			11,130

③物品寄付明細

NO	月日	寄附者名	物品名
1	R4. 5. 2	(匿名)	紙オムツ、パット7袋 (包括で必要な方へ配分)
2	R4. 5. 24	(匿名)	もち米5kg (社協事業で使用)
3	R4. 6. 7	大槻 則子 様	葉書 @40×200=8,000 @20×200×5=20,000 (社協事業で使用)
4	R4. 6. 20	(匿名)	紙おむつ5袋 (包括で必要な方へ配分)
5	R4. 6. 27	(匿名)	離乳食37袋 (社協事業で使用)
6	R4. 7. 19	(匿名)	雛壇セット (社協事業で使用)
7	R4. 9. 2	山田 良一 様	スロープ (包括で使用)
8	R4. 10. 11	(株)セントラル伸光 セントラル大河原店 様	お菓子セット50個 (社協事業で使用)
9	R5. 1. 10	(株)ダイナム 様	食料品他一式63点 (社協事業で使用)
10	R5. 2. 8	豊屋食品工業(株) 様	青唐辛子みそ他3個 (社協事業で使用)
11	R5. 3. 20	豊屋食品工業(株) 様	仙台長茄子漬ほか漬物15袋 (社協事業で使用)
12	R5. 3. 27	遠藤 崇行 様	紙パンツ4袋、ケアシート2枚 (包括で必要な方へ配分)

13. 受託事業

県社協、町からの事業の委託を受け、社会福祉協議会の受託事業として利用者本位の質の高いサービス提供が行われるよう体制づくりを進め事業を実施した。

(1) 日常生活自立支援事業（まもりーぶ事業）

宮城県社会福祉協議会からの一部委託事業として、認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等のうち判断能力が不十分な方が、地域において自立した生活が送れるよう在宅生活を支援する事業として、利用者との契約に基づき、福祉サービスの支払いをはじめとした日常的な金銭管理や、通帳など重要書類を預かり、利用者が安心して自立した生活が送れるようにすることを目的とし、生活支援員7名を配置し福祉サービスを実施した。

相談受付状況

対象者別	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合計
相談受付数（件）	0	0	0	0	0
年度末利用者数（人）	0	4	8	0	12

(2) 柴田町自立者支援通所事業「春風」

介護認定を受けていない在宅の高齢者に対し、心身機能の維持・向上及び積極的な社会参加と生活の活性化を図るため、身近に利用できる自立支援事業として、柴田町地域福祉センターで開催。

○ 主なサービス内容

・バイタルチェック・今日の話・送迎・外注による食事の提供

・趣味・創作活動

(春に親しむ・花見) / フラワーアレンジメント / 万華鏡作り / カレンダー作り / 雛人形 / レジンアクセサリ / 正月飾り / 映画鑑賞 / 紋切り / 寄せ植え / 季節の飾り物

・教養講座

(健康講話 / 社協職員講話 / マジック)

・機能訓練

(あたまの体操 (音読、計算、間違い探し、クロスワード・迷路))

・レクリエーション

(知的、体を動かすレクリエーション、リズム体操)

柴田町自立者支援通所事業年間利用状況 (R5. 3. 31 現在)

登録人数	開催日数	延べ利用者数	1日平均
71人	226日	1,474人	約7人

(3) 槻木ケアステーション運営事業

高齢者世話付住宅（シルバーハウジング）生活援助員派遣事業及び、身体障害者自立支援事業を町から受託し、県営柴田槻木住宅内に生活支援の拠点として整備した「槻木ケアステーション」において、対象入居者への生活支援及び、必要に応じた一定の介助を行ない、地域社会の中で自立して安全かつ、快適な日常生活を営むことができるように支援を行った。毎月1回入居者が集まって交流が出来る「いこいの広場」を開催した。

入居対象個数及び入居状況

高齢者世話付住宅		身体障害者ケア付住宅	
入居対象者数	入居世帯	入居対象戸数	入居世帯
10戸	10戸	5戸	2戸

①生活援助員（L.S.A）活動状況

生活援助員は、高齢者の世話付住宅（シルバーハウジング）入居者を支援するため生活指導相談、安否の確認、一時的な家事援助の提供、緊急時の対応等関係機関との連携を図った。
(生活援助員1名)

②ケア付住宅入居者介助状況

ケアステーションに介助員を配置し、ケア付入居者に対して必要とする食事、入浴、排泄、衣類着脱、洗濯、清掃、買物等の介助、生活及び、自立に関する相談、助言等のサービスを行った。(介助員2名体制)

(4) 柴田町高齢者サークル活動支援事業

柴田在住のおおむね70歳以上を対象に仲間づくりや生きがいを促進するとともに社会参加を図ることに努めました。

令和4年度は、2サークルの支援であった。

	サークル名	登録人数	実施場所
1	カラオケ	19人	農村環境改善センター
2	書道	15人	船迫公民館

(5) 柴田町地域包括支援センター事業

柴田町地域包括支援センターは、船岡・船迫地区を担当エリアとし、地域の高齢者が、住み慣れた地域で、その人らしい尊厳ある暮らしを継続できるよう、ニーズや状態の変化に応じて、必要な支援や見守りが切れ間なく提供される体制づくり（多職種多機関による連携支援と地域支援・認知症施策の推進）を行いました。

主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師(看護師)の専門職が配置され、それぞれの特性を活かし、連携する事で(1)介護予防ケアマネジメント(2)総合相談支援(3)権利擁護(4)包括的・継続的ケアマネジメント支援の4つの基本業務を担当すると共に、地域の実情に応じた任意事業に取り組み、下記の通り実施しました。

コロナ禍においても、包括独自のガイドラインを参考にしながら、オンライン研修も取り入れ計画通り事業を実施することができました。

1. 包括的支援事業

(1) 新規相談者 270件、継続相談・再来者相談者 1356名

(2) 相談件数合計 4904件

- ・総合相談 相談延べ件数 4523件
- ・権利擁護・高齢者虐待等 相談延べ件数 101件
- ・包括的継続的ケアマネジメント支援事業 ケアマネジャー支援延べ件数 280件

(3) 事業(会議)実績

- ・ネットワーク代表者会議 (3回) 32名
- ・ネットワーク全体会議 (3回) 112名
- ・地域ケア推進会議 (1回) 10名
- ・地域ケア個別会議 (3回) 46名
- ・自主研究部会(6団体)支援(活動支援・研修実施支援)
 - ① 部会事例検討 (5回) 93名
- ・ケアマネジャー情報交換会 (3回) 120名
- ・主任ケアマネジャー連絡会 (5回) 46名
- ・福祉課地域包括連絡会 (12回)
- ・認知症地域支援推進員連絡会 (12回) 94名
- ・チームオレンジ井戸端会議 (6回) 66名
- ・権利擁護関係
 - ① 虐待対応 (5件)
 - ② 成年後見制度 町長申立て(1件) 新規相談支援(7件) 継続相談支援(8件)
 - ③ 処遇困難ケース検討会議随時開催(18回)
- ・サービスガイド作成・配布 450部

2. 介護予防給付・介護予防ケアマネジメント

- ・事業対象者・要支援1・2認定者の給付管理数 2403件

3. 介護予防事業

(1) 一般高齢者地域介護予防支援事業

- ・ダンベルサークル連絡会 (3回) 156名
- ・玄米ダンベル体験会3回コース (9名) ⇒4名がサークル加入
- ・介護予防普及サポーターフォローアップ研修 (3会場) 121名
- ・ノルディックウォーキングサークル連絡会 (3回) 15名
- ・ノルディック体験会3回コース (15名) ⇒新たにサークル結成「木よう会」
- ・高齢者のランチを楽しむ会(7グループ中5グループが開催)(31回) 255名
- ・高齢者のランチを楽しむ会世話人会開催 (3回) 31名

(2) 普及啓発事業

- ・出前講座(17回) 401名

4. 任意事業 介護家族支援事業

- ・介護家族の会「よつば会」
役員会(4回) 21名、総会(1回) 18名、交流会(34回)
- ・ふたば会支援(毎月第2火曜日) (13回) 120名
- ・しゃべり場(毎月第1水曜日開催) (12回) 49名
- ・駅前しゃべり場(毎月第3木曜日開催) (12回) 65名
- ・ネットワーク情報(権利擁護普及啓発チラシ) 年3回作成・配布
- ・新型コロナウイルス等新しい生活様式定着に向けたガイドラインの見直し
- ・フレイル予防やマスク熱中症等のチラシ 年1回作成
- ・職員ミーティングの開催 年13回

(6) 柴田町社会福祉協議会訪問調査センター事業【町委託事業】

高齢者の介護を社会全体で支える制度として設けられた、介護保険制度のサービスを受けるために、町及び他市町村からの認定調査事務の委託を受けて、要介護認定等の申請を行った被保険者の心身の状況等について、定められた認定調査を行った。また、障害程度区分認定調査も行った。

1. 柴田町要介護認定等調査実績(令和4年4月～令和5年3月)

調査区分	新規	更新	区変	介護	再調査	合計
件数(件)	424	857	152	81	4	1,518

2. 他市町村から受託した介護認定等調査実績(令和4年4月～令和5年3月)

- ・0件

3. 柴田町障害認定区分調査実績(令和4年4月～令和5年3月)

- ・55件

(7)柴田町生活支援体制整備事業(生活支援コーディネーター配置)【町委託事業】

町の受託事業として、地域包括ケアシステムの構築における高齢者の生活支援体制整備に向けて、その業務を担う生活支援コーディネーターを当協議会に配置(第1層1名、第2層2名)し、地域づくりに向けて下記の取り組みを行いました。

1. 地域支え合い活動促進

- ・「しばた・来らいんマップ」取材も兼ねて「通いの場」や「居場所」を訪問
- ・みやぎ生活協同組合との協働
「移動販売車」の調整や訪問活動(柴田は月・木―船岡西 水―土手内・西船迫・入間田)
- ・(株)イトーチェーン本部との協働
「お買い物バス」の調整(松ヶ越地区限定 火・木・土)
- ・まちづくり推進センターゆる・ぷらとの地域活動等の協働

2. 地域に関する状況の収集・整理

- ・「地域活動をしている方々の日常生活状況アンケート」を実施(対象:生涯学習センターを活用しているシニア団体)

3. 収集した情報の発信、住民への啓発

- ・「生活支援コーディネーター通信 みんなの広場」第5号発行(全戸配布)
- ・生活支援コーディネーターPRチラシ裏面に「SCかわら版」作成(7月・9月・12月・3月)
- ・「みんなの美術館」(6月から3月開催)
地域の居場所づくりや介護予防への展開として「アート&イノベーション」を目的に開催
- ・「地域デビュー オススメ情報セット」各生涯学習センターや図書館等で情報提供
- ・「しばた・来らいんマップ」を小学校区にリストアップし、作成関係機関配布(200部)

4. 実施分析の実施

- ・出前講座6回
- ・社協事業「地区ワークショップ」を開催し、住民の地域課題を明確化
- ・社協ボランティアセンター共催で、「コミュニティガーデン講座」を開催(参加者10名)
- ・地域のニーズとして、9Bベンチプロジェクトに協力

5. 生活支援・介護予防体制整備協議体への参加

- ・8月22日 協議体へ出席(令和2年度・令和3年度の生活支援活動報告)

6. 研修会への参加

- ・外部研修(5回)
- ・宮城県生活支援コーディネーター養成研修
- ・市町村伴走型支援モデル事業成果報告会
- ・認知症地域支援推進員研修(3回)

7. 生活支援コーディネーター連絡協議会(5者連絡会)

- ・高齢者の生活体制整備に向けて、福祉課・柴田町地域包括支援センター・槻木地域包括支援センター・柴田町社会福祉協議会と情報共有し、今後の具体的な展開や方策等について定期的に検討(年12回)

14. 指定管理事業

町からの事業の指定を受け、指定事業として業務及び高いサービス提供が行われるよう体制づくりを進め事業を実施した。

(1) 地域福祉センター指定管理事業

地域福祉センターは、平成21年度から指定管理者の指定を受け、運営管理業務を行っています。センター内には、社協事務所・ボランティアセンター、生活支援コーディネーター室、訪問調査センター、自立者支援通所事業「春風」が事務所を構え、地域住民の生活を支える福祉の総合的な拠点としての役割を果たしています。また、研修室を完備し、社協事業・福祉団体・役場主催の行事等に有効的に活用されています。(令和元年度～令和5年度：指定管理者)

○主な運営業務内容

1. 福祉センターの施設及び付属設備の維持管理並びに修繕に関すること
 - 施設害虫駆除、除草・草刈、ゴミ清掃、施設内外修繕
2. 福祉センター入居事業者等との調整に関すること
 - 施設利用申請や必要に応じた福祉センター連絡会の開催
3. 福祉センター入居に係る各種経費の精算に関すること
 - 電気・灯油代の請求書の作成
4. 福祉センターの利用申請に関すること
 - 研修室等の利用申請業務(町の事業、社協事業、ボランティア団体等)
5. その他、町が福祉センターの運営に必要と認めた事項に関すること

○令和4年度施設利用実績(3年度実績)

研修室			小会議室			相談室			ホール		
回数	時間	人数	回数	時間	人数	回数	時間	人数	回数	時間	人数
47 (113)	93 (137)	1,556 (565)	123 (137)	233 (245)	865 (949)	165 (139)	317 (428)	331 (336)	82 (198)	156 (374)	1,250 (4,027)
						旧まごころホーム			施設利用合計		
						回数	時間	人数	回数	時間	人数
						187 ()	433 ()	5,203 ()	604 (587)	1,231 (1,183)	9,205 (5,877)

(2) 柴田町地域活動支援センターもみのき・柴田町地域活動支援センターしらさぎ指定管理事業

障がい者及び障がい児が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者を通わせ、創作的活動や生産活動の機会の提供、社会交流の促進などを図り総合的に支援することを目的とします。

◎柴田町地域活動支援センターもみのき利用登録者数(9人)

○主な事業内容

1. 創作的活動・交流活動

□ラジオ体操、フラワーアレンジ、農耕作業

2. 生産活動・交流活動

□菓匠三全、ネクストの下請け作業の下請け作業

3. 年間行事

□お花見、

4. 交流活動（生産活動の協力及び創作的活動の協力団体等）

□柴田町ボランティア・NPO活動連絡会、町内登録ボランティア

□花匠園

◎柴田町地域活動支援センターしらさぎ利用登録者数（36人）

○主な事業内容

1. 創作的活動

□団子処しらさぎ店舗装飾づくり・合同俳句会・園芸福祉活動

2. 生産活動・交流活動

□松和産業・東和製作所の下請け作業、販売手芸品等の作成、つつみ屋フランチャイズ
店舗販売・めいらくソフト販売・紙資源回収作業

3. 年間行事

□柴田町社会福祉協議会「福祉まつり」参加・関係機関とのケア会議
定例会【利用者さんの意見交換会】【各毎月1回開催】
体力づくり（ラジオ体操実施）

4. 地域交流活動（町内のイベント等への参加）

□地域福祉センター等での団子等の出張販売

（柴田町民生児童委員協議会定例会・各研修会・各団体総会等）

□障害者芸術大全国公募展出展、さつまいも苗植え、枝豆植え、資源回収
えぞこワークショップ参加、福祉まつり参加、新年ポッチャ大会

15. 福祉団体等事務局業務

町内の福祉団体が自発的に、自立して自らの団体の目指す活動ができるように、必要な相談支援を行った。また、団体運営が円滑に推進できるように団体事務及び連絡調整を図り、福祉団体の育成強化に努めた。

(1) 柴田町民生委員児童委員協議会（民生委員児童委員80人、主任児童委員3人）

目的： 民生委員児童委員の相互の研鑽と資質の向上に努めるとともに、職務に関する連絡提携を行なう。併せて町、保健福祉事務所、その他関係機関との緊密な連携を保ち、もって社会福祉の増進に努めることを目的とする。

～ 業務内容 ～

- 1) 柴田町民生委員児童委員協議会の会計事務
- 2) 宮城県、宮城県民生委員児童委員協議会関係の報告等事務
- 3) 定例会（12回）の開催準備（会議、研修会含む）
- 4) 企画部会（13回）の開催準備（民児協事業の企画立案）
- 5) 生活、高齢者、児童福祉部会の活動支援（役員会、研修会含む）
- 6) 民生委員・児童委員の日 活動強化週間 PR活動準備
- 7) にこにこ親子応援隊（ブックスタート）
- 8) 民協互助会
 - ・見舞金、退任慰労金等の申請事務、会計事務
- 9) 一斉改選による事務手続き
- 10) 表彰者申請

(2) 柴田町ボランティア・NPO活動連絡会（団体数24団体）（個人25人）（賛助22人）

目的： ボランティアの連絡調整と情報交流を図り、積極的なボランティア活動を推進することを目的とする。

～ 業務の内容 ～

○柴田町ボランティア・NPO活動連絡会

- ・柴田町ボランティア・NPO活動連絡会 経理事務
- ・年会費の取りまとめ
- ・総会（案内文書送付・参加者取りまとめ・総会資料作成）※書面
- ・柴田町ボランティア・NPO活動連絡会研修会 開催（対面形式開催）
- ・役員会 年3回 開催
- ・「8月ボランティア強化月間」（ボランティア体験会※コロナ禍にて中止）
- ・特別養護老人ホーム常盤園（※コロナ禍にて中止）
- ・地域活動支援センターもみのき（定期的ボランティア活動）

- 仙南地方ボランティア連絡協議会
 - ・役員・事務担当者会議 年3回※リモートにて実施
 - ・総会（6月）※書面
 - ・仙南地方ボランティア研修会（丸森町会場実施）
 - ・令和4年度事務局（丸森町）

（3）柴田町身体障害者福祉協会（会員数33人）

目的：柴田町内に在住する身体障害者の福祉増進に必要な事業を行うと共に会員相互の親睦を図ることを目的とする。

～ 業務の内容 ～

- 柴田町身体障害者福祉協会
 - ・柴田町身体障害者福祉協会 経理事務
 - ・年会費の取りまとめ
 - ・総会 開催（案内文書送付・参加者取りまとめ・総会資料作成）
 - ・役員・代議員合同会議 年3回 開催
 - ・ランチ会 開催
- 仙南地方連絡協議会
 - ・定期総会
 - ・仙南地方連絡協議会 コミュニケーション麻雀交流会

（4）柴田町遺族会（会員数151人）

目的：戦死戦病者遺家族の福祉向上、英霊の顕彰及び遺家族の親睦を図ることを目的とする。

～ 業務の主な内容 ～

- 柴田町遺族会
 - ・柴田町遺族会 事務
 - ・総会 開催（案内文書送付・参加者取りまとめ・総会資料作成）
 - ・役員会 年1回 開催
- 県遺族会
 - ・戦没者慰霊 8月

（5）福祉劇団「鶴亀」（会員数6人）

目的：“目で見てわかる福祉”をチャッチフレーズに福祉劇を上演し、様々な福祉サービスをみんなに知ってもらうための公演活動を行っている。

～ 業務の主な内容 ～

- ・福祉劇団「鶴亀」 経理事務
- ・毎月定例会 開催
- ・公演依頼の対応・日程調整

(6) 柴田町老人クラブ連合会 (会員数327人)

目 的： 老人クラブの育成を図ると共に広く老人福祉の推進に寄与することを目的とする。

～ 業務の内容 ～

○柴田町老人クラブ連合会

- ・柴田町老人クラブ連合会 経理事務
- ・年会費の取りまとめ
- ・総会開催 (案内文書送付・参加者取りまとめ・総会資料作成)
- ・役員会、委員会の開催
- ・部会の開催 (必要に応じて開催)
- ・グラウンドゴルフ大会開催
- ・ボッチャ交流会開催
- ・柴田町社会福祉協議会みんなの美術館へ出品
- ・女性部健康講演会開催
- ・女性部研修会開催
- ・研修会開催
- ・町補助金関係 申請・報告書提出

○県老人クラブ連合会

- ・女性リーダーセミナーへの参加
- ・宮城県シニアスポーツ大会 出場
- ・県補助金関係 申請・報告書提出

(7) 柴田町共同募金委員会(理事11名・監事3名・評議員23名)

目 的： 共同募金運動の目的達成のために、社会福祉法人宮城県共同募金会の定める諸計画を実施するとともに、柴田町の福祉の増進することを目的とする。

～ 業務の内容 ～

- (1) 柴田町における募金活動の実施
- (2) 柴田町における広報活動の実施
- (3) 柴田町における社会福祉協議会及び受配者との連絡
- (4) その他、共同募金運動の目的達成のために必要な事業
- (5) 共同募金配分金(事業)周知・申請受付
- (6) 小規模災害見舞金の申請事務
- (7) 宮城県共同募金会関係の報告等事務
- (8) 会計事務、会計システムの操作
- (9) はねっとシステム操作

◇令和3年度共同募金（令和4年度事業）

○住民力・地域力・福祉力を高める支援事業（1件 50,000円）

団 体 名	配分金額	事 業 名
土手内西町内会	50,000	住民交流事業

○地域福祉事業（町社会福祉協議会）

1,931,814円

○共同募金委員会 事務補助費 348,324円

（8）柴田町内福祉施設等連絡協議会（22施設加入）

目 的： 柴田町内の福祉施設等が相互の連絡調整を図ることにより、専門的機能・知識を活かし、もって地域福祉活動を推進することを目的とする。
社協と協働して福祉まつりの開催に向けて、福祉施設の展示・即売などに参加し、住民の方々と交流を図る。

※コロナ禍にて活動休止